

放し飼い牛舎・放牧地および繋ぎ飼い牛舎における乳牛の行動 II. 横臥および Lying-down 活動

Behaviour of daily cows kept in extensive (loose housing/pasture)
or intensive (tie stall) environments II. Lying and lying down behaviour

C. C. Krohn, L. Munksgaard

Applied Animal Behaviour Science, 37 (1993), 1-16

要約:

24組の双子の乳牛を12頭の4つのグループに分けた。

グループE: 放し飼い牛舎、自由採食、豊富な敷料、1日2回搾乳、運動場および放牧地あり。

グループN: 繋ぎ飼い牛舎、コンクリート牛床に1kgの麦稈、1日2回搾乳、運動場なし。

グループI: 繋ぎ飼い牛舎、ゴムマット牛床に2kgの麦稈、1日4回搾乳、運動場なし。

グループIE: 1日1時間運動場に放すことを除いてはグループIと同様。

一般に、Lying-down活動の持続時間は繋ぎ飼いの場合が有意に長く、Lying-down活動の中断は、繋ぎ飼いの場合が放し飼いの場合に比べて多く見られた。Lying-down活動の持続時間はグループNがグループEに比べて有意に長かった。

横臥時間はグループEが繋ぎ飼いのグループに比べ有意に短かったが、繋ぎ飼いのグループ間で

有意差はなかった。グループEで、休息バウト(何回かの短い佇立を含む横臥状態)の平均持続時間は、放牧地において有意に長かった。横倒し状態の横臥、頭部を後方に曲げた横臥および頸を地面に伸ばした横臥は、豊富な敷料の場所よりも放牧地で多く見られた。IEでの横臥時間および休息バウトの長さは、運動なしのグループIと差はなかった。横臥時に前膝をつく時間は、グループIEでグループIに比べ短かった。

グループEの乳牛の前膝および飛節に炎症は認められなかった。繋ぎ飼いのグループの乳牛のうち8~10頭で飛節部分に炎症が認められた。乳頭を踏みつける頻度は、グループNがグループIおよびIEに比べ有意に多かった。

以上のことから、繋ぎ飼いにおける牛床でのLying-down活動は牛に嫌悪感を与え、繋ぎ飼い方式は牛に対する創傷の危険性を増加させるといえる。(井堀 克彦)

育成牛での離乳後の訓練とストール利用の関係

Weanling training and cubicle usage as heifers

Janet M. O'Connell, Paul S. Giller, William J. Meaney

Applied Animal Behaviour Science, 37(1993), 185-195

要約:

離乳後子牛用ストールでその利用法の訓練を牛

の行動分析を通して評価するため、2回の試験を行った。1回目の試験では積極的なストール利用